

課題名	実験動物マウス及びラットリソースの輸送システムの開発
課題管理者	吉木 淳 理化学研究所バイオリソースセンター
実施期間	2007 - 2008 年度
概要・実施体制	<p>理研 BRC ならびに京都大学は第 1 期 NBRP でそれぞれマウス及びラット中核機関として世界有数のリソースセンターとなり、高品質化を施したリソースを研究者へ提供してきました。今後のライフサイエンス研究を飛躍的に促進するためには、NBRP で整備する世界最高水準のマウス・ラット系統を迅速かつ円滑に国内利用者に提供する優れた輸送システムが必要です。リソースの高い品質を確保しつつカルタヘナ法や改正動愛法等にも適合した輸送を実現するために本課題では、1) 輸送箱の性能試験を実施し、遺伝子組換えマウス・ラットの安全な輸送箱を開発します。さらに、2) 凍結によらない胚・精子の保存条件を検討し胚・精子の簡易輸送法を開発し、3) 液体窒素を用いない胚・精子の凍結法を検討し安価な輸送法を確立します。理研 BRC、京都大学に加えてマウス・ラットの胚・精子保存法の開発で世界トップである熊本大学が連携して本課題に取り組み、安心、安全、安価な輸送法を開発して成果を利用者に還元します。</p>
成果	<p>第 55 回日本実験動物学会総会 / 日本実験動物科学技術 2008 ポスター など PDF 版 (1.6MB)</p>